

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 8月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・企業として加入していた保険の満期等で採算は良くなった。今回は単発的なものだから、コロナの影響もなくなってきており、徐々に売上、収益は増加していくと思われる。
- ・少しずつだがコロナ罹患が継続している。社内では引き続き、従来通りの管理をしている。
- ・現場の熱中症発症は以前より抑えられているが、さすがにここ数週間の暑さは厳しく、ぽつりぽつりと出ている。
- ・以前より資材価格高騰が部分的になっているが、労務費のアップは続く。
- ・業績は回復傾向がみられるが、原油高騰による更なる原材料の高騰で、コスト高ならび人出不足は否めない。
- ・景気の陰りが見え始め、心配している。
- ・カーボンニュートラル等の環境を考慮した行動をとる企業が増えてきており、当社も従来通りの考えで売上、利益アップをのみを追求しては情勢に遅れをとり、先細りの会社に転落するのではと感じる。
- ・2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする大きな目標が国家にあるため、今後、従来実施不可能な方法が当たり前のこととなると感じる。今時点より大きなかじ取りの一步を実施しなければ会社の存続は難しいと強く思う。

◎製造業

- ・コロナ5類引き下げにより、イベントの開催や外食・観光業の需要が増加するものの、人手不足により、生産が追い付かない状況である。しかしながら、求人をするも、応募者が少なくすぐには状況が改善しない。
- ・人手不足の環境下、人件費や仕入価格の上昇が前年比採算悪化の原因。販売価格への転嫁を図る必要あり。
- ・連日の猛暑で工場内も尋常ではない温度になっている。溶接など火を使うため 40℃以上にはなっている。空調服はやっているが、将来的にはエアコンなど考えなければと思う。
- ・全体に業況は悪くない。原材料高騰の影響もあり、高価なステンレス製タンクより安価な鉄製タンクが出ている・状況。
- ・今月より大型設備投資分が稼働することで減価償却費は上昇。

◎卸売業

- ・猛暑のためお盆の里帰りが減少し、消費が減るのではないかと考えている。最低賃金の上昇が10月以降どのようになるか、また、パートの人員の削減を考えている。
- ・今年の4月から雇用調整助成金がなくなり採算面では悪化している。9月から弊社は期が変わるため、売上は回復基調になっているが採算面では悪化。売上もこのような感じでコロナ前には戻らず、経費だけが增加してどうにかして黒字になる方法を模索したい。
- ・公共資材卸売りのため、土木工事役所発注減少に伴い商いが厳しくなっている。
- ・お盆の需要を控え、入荷量の増加のため、産地や農家に出荷の働きかけを行っているが、連日の真夏日により、収穫量の減少、品質の悪化、正品率の低下の傾向が見られ、厳しい販売となっている。

◎小売業

- ・引き続き、イベント関係の商品の注文が多い。のぼり・Tシャツなどの注文が続いている。
- ・全国的に猛暑日が続く、屋外では熱中症対策、室内ではより暑さを防ぐ日よけ関連の需要が拡大している。

- ・また、コロナ5類引き下げによる、行動制限緩和により、夏休み期間の外出需要の増加、まつりや町内活動等のイベント復活など、経済活動の正常化が見られる。住環境の需要ニーズの高まりを受け、夏物関連商材、レジャー用品の販売が好調に推移している。

◎サービス業

- ・コロナが5類に引き下げられたことにより、まつりや飲み会などの様々なイベントが再開してきているため、経済が回りだしているように思う。依然として先行きは不透明だが、動き出した経済に期待したい。
- ・新規の案件など新しい顧客獲得に動いている。
- ・これまで苦しめられ続けてきたコロナではあるが、ここに来て影響は激減し人流もコロナ前水準に戻ってきたと判断できる。
- ・乗務員一人当たりの売上は回復したものの、人手不足による稼働車両台数減により、売上の限界が決まっている。
- ・コスト上昇による収益の悪化。これらにより採算ベースで考えるにはまだまだ遠い道のりである。
- ・新潟まつりなどイベントの開催も復活し、売上も増加しつつある。
- ・社内では、家庭の事情などによって退職者が続いたことによりハローワークに求人を申し込んでいたが、これまでと考え方を変え、短時間労働者についても募集してみたら応募があった。従来の働き方にとらわれず新しいシフトや調整により人手不足を解消していきたい。
- ・物価高により、原材料価格は不変だが、燃料価格が下降気味であるため業績に貢献している。
- ・酷暑のため利用頻度が多い。業界全体で人手不足のため供給不足が目立ってきた。
- ・10月からの最低賃金の見直しにより、業績の悪化が心配される。
- ・入客はコロナ以前に戻りつつあるが、人員不足の為供給面で対応が困難な側面もある。
- ・コロナ5類引き下げで、人の動きは大きく変わった。古町、新潟駅周辺では、本当に多くの人が動いている。また、週末ではあるものの、飲食業界にも活気が戻っているように感じる。
- ・福祉・医療業界は、引き続きコロナ対策は継続。
- ・どの業種も人手不足は深刻な状況であるが、不足しているからと、誰でも良いわけではない。どのように質の高い人員を増やしていくかが、今後の課題となりそう。
- ・イベント開催の回復基調を受け、需要喚起につながり好調な業績となっているが、エネルギー価格の上昇や人手不足を補うための賃金アップ等、経営課題が多く難しい経営を強いられている。
- ・最低賃金のアップが控えている状況で更に経営の効率化の推進を図るためシステム改善やIT関連への設備投資が必要である。
- ・秋からの商品・燃料・電力の値上げがとても心配。売上が上昇しても比例して経費も上昇しているため、利益の構造が出にくい状況である。
- ・猛暑で車が故障しやすく、修理代も物価高のため上昇しており、経営が圧迫される。
- ・猛暑とコロナ感染の微増による稼働減が懸念される。
- ・県内需要は依然として停滞している。県外からの引き合いで保持しているが新潟市の活性化には寄与したい。
- ・コロナが5類に引き下げられ、荷動き回復を期待していたが、未だ低迷が続いている。